

平成29年度 学校評価アンケート分析結果

宮城県登米総合産業高等学校

1 調査対象

- ・生徒（回収率 92.9%）
- ・保護者（回収率 71.7%）
- ・教職員（回収率 96.3%）

2 調査期間

- ・平成29年11月17日～30日

3 調査内容

(1) 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている	(学習指導)
(2) 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	(生徒指導)
(3) 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	(進路指導)
(4) 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	(教育相談)
(5) 部活動が活発に行われている	(部活動)
(6) 生徒会活動が活発に行われている	(生徒会活動)
(7) 有意義な学校行事がある	(学校行事)
(8) 地域の人と関わる機会を多く取り入れている	(特色ある学校づくり①)
(9) 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる	(特色ある学校づくり②)
(10) 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている	(防災教育)
(11) 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている	(開かれた学校づくり)
(12) 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている	(施設設備)
(13) 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	(いじめ問題)
(14) 環境美化に取り組んでいる	(環境美化)
(15) 学校生活は充実している	(総合満足度)

4 調査方法

- ・質問紙法

5 調査結果

- ・項目別で「当てはまる」と「大体当てはまる」と回答した割合の合計（以下「肯定的評価」という）が高いのは、生徒、保護者ともに「開かれた学校づくり」、「特色ある学校づくり②」、「特色ある学校づくり①」と続く。（下記参照）
- ・昨年度アンケート結果との比較において、肯定的評価が、生徒は15項目（全項目）、保護者は13項目において上回った。
- ・生徒の肯定的評価のうち「特色ある学校づくり①」が前年より25ポイント以上、上回った。
- ・「総合満足度」は、生徒で昨年度より約10ポイント上回り、保護者の肯定的評価は、昨年度より1ポイント低下したものの、8割を上回った。
- ・生徒、保護者、教職員それぞれの観点の違いから、肯定的評価が20ポイント以上乖離した項目は、「環境美化」で教員の評価に比べ生徒の評価が25ポイント下回り、「いじめ問題」で教員の評価に比べ、生徒の評価が25ポイント、保護者の評価が37ポイント下回った。
- ・肯定的評価が最も低かったのは、「いじめ問題」で保護者の約58%であった。

《調査内容について前年度結果との比較増減》（%）

		【生徒】		【保護者】		【教職員】	
調査項目		肯定的 評価	比較 増減	肯定的 評価	比較 増減	肯定的 評価	比較 増減
1	学習指導	75.9	10.3	79.0	2.0	94.9	24.8
2	生徒指導	80.7	5.9	74.7	0.5	97.4	23.0
3	進路指導	80.8	7.0	80.0	1.1	91.0	6.6
4	教育相談	79.8	9.6	71.6	▲1.7	97.4	1.3
5	部活動	82.8	9.2	80.9	5.1	82.1	15.4
6	生徒会活動	76.4	12.7	76.5	3.2	78.2	1.6
7	学校行事	74.6	9.8	78.7	0.7	91.0	8.9
8	特色ある学校づくり①	86.9	25.6	89.2	18.2	92.3	3.8
9	特色ある学校づくり②	87.3	7.9	90.6	2.1	93.6	2.6
10	防災教育	85.6	12.5	82.2	13.4	93.6	6.4
11	開かれた学校づくり	87.6	9.0	93.1	14.0	98.7	1.3
12	施設設備	81.0	11.3	88.3	6.7	80.8	5.5
13	いじめ問題	70.2	7.5	57.7	8.0	94.9	4.0
14	環境美化	66.1	13.8	79.5	4.5	91.0	41.7
15	総合満足度	76.5	9.8	83.0	▲1.0	—	

1. 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている（学習指導）

【分析および改善に向けた取り組み】

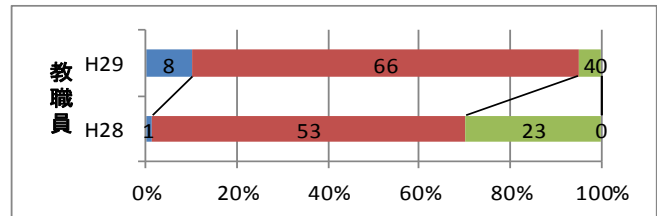
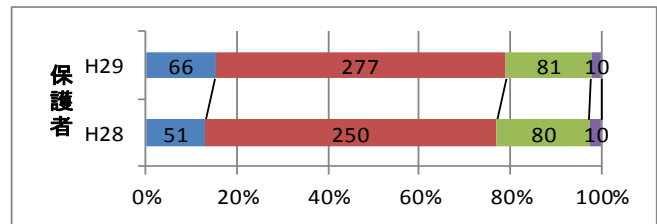
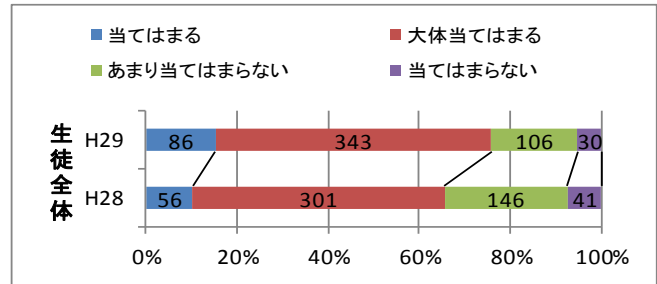
「授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている。」

<分析>

- 肯定的な回答（「当てはまる」「大体当てはまる」）が、【生徒全体】では75.9%（H28:65.6%）、【保護者】では79.0%（H28:77%）、【教職員】では94.9%（H28:70.1%）となった。教職員の工夫や改善が、生徒にも伝わっていることがわかる。
- 生徒の回答状況を学年別にみると、1年生では8割を超える生徒が肯定的な回答をしているが、2年生では肯定的な回答が7割を切った。

<改善に向けた取り組み>

- 保護者については、H27が8割を超えていたことを考えると、学習に関しても何かしらの発信が必要だと感じた。
- 「授業評価」を見ると、「家庭学習に取り組まない」「わからないところをそのままにする」「教科に対する興味や学習意欲がわからない」という生徒が3割以上いることがわかる。これまで以上に生徒自身や学力状況を把握し、授業展開を工夫していく必要がある。
- 「学習規律の確立」、「家庭学習の習慣化」の取り組みについては、基本的なことゆえ来年度以降も継続して実施していく。
- 研究授業は、ほぼすべての教科・学科で年2回実施された。多忙な中での実施で大変な苦労があったと思うが、本校の学習指導全体に良い影響を与えた機会だと感じている。来年度も継続してほしい。



2. 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）

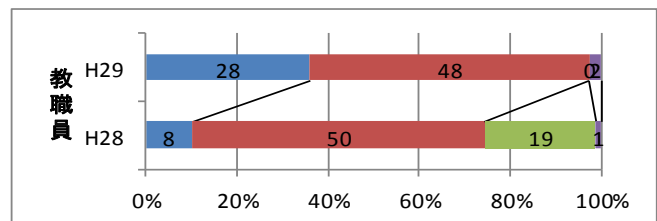
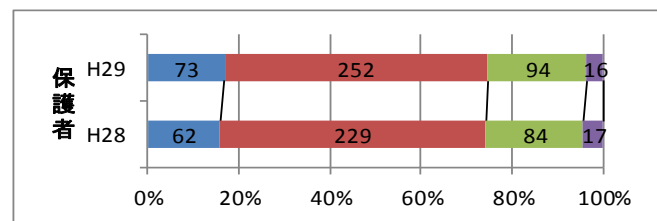
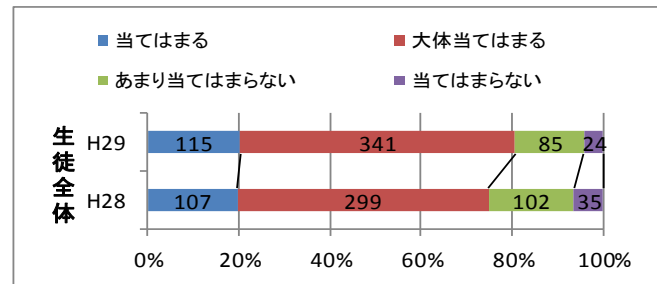
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

学校評価アンケート結果から肯定的な回答が生徒で6%、教職員で20%の上昇となったが、保護者では僅か0.5%の上昇に止まった。具体的な取組として、年度当初から「愛」スローガンを掲げ全職員で挨拶と身だしなみ指導の展開と、図書部の全面的支援で昇降口の遅刻生徒の指導も同時に展開してきた。また、10月から朝の立ち番指導も加え現在も継続指導中である。生徒の出席状況(欠席・遅刻・早退の合計)を昨年と比較すると、欠席、遅刻、早退が減少となり指導の効果が現れた。集会においては学年の協力の下、落ち着いた集会となっている。

<改善に向けた取り組み>

対策については、「愛」スローガンを本校のスタンダードの中でも重点課題と位置付け、指導項目をより限定したものとし、教育活動全般において見て見ぬふりをしないことを徹底する。また、家庭との連携については、ホームページや学校掲示板を使い、行事の予告や生徒の様子をリアルタイムで情報提供をしているが、次年度は担任と家庭のつながりを考え、機会を捉えた連絡・報告を大切にしたい。間違いなく、学校らしく変わりつつある事を実感している。



3. 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）

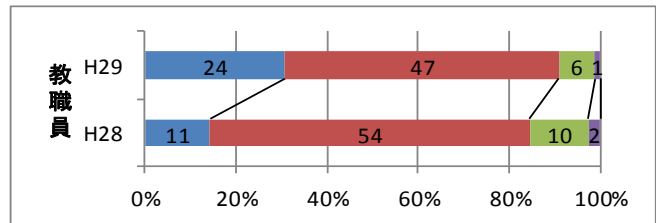
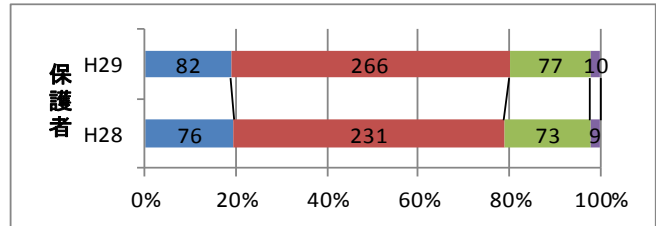
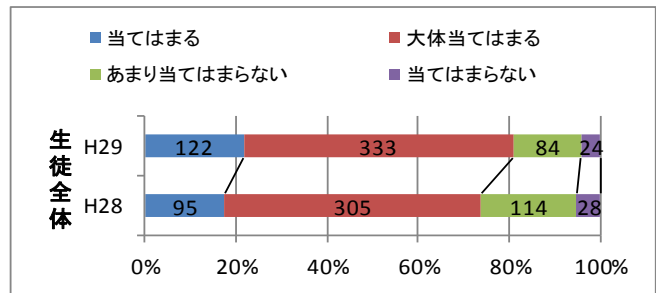
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」という質問に対し、肯定的評価「当てはまる」「大体当てはまる」と回答した割合が、生徒80.8%、保護者80.0%、教職員91.0%となっており、本校の進路指導に対して概ね評価いただいていると考える。これは、各部署、各学科、各学年、各教科等での学習活動および常に進路を意識した指導を継続して行っていることや各種進路行事の実施が、生徒の進路目標の明確化につながっていると考える。また、保護者に対しては「進路NEWS」の発行および3年生の保護者に対しては「進路保護者説明会」を開催しており、生徒、保護者の本校の進路活動に対する共通理解、進路指導の協力を得る一因にもなっていると考える。

<改善に向けた取り組み>

進学指導、就職指導、適切な指導が行えるように、生徒、保護者、教職員が、さらに共通理解を図り、生徒の立場に立った進路達成までの進路指導計画の構築・体制を整え進めて行く。また、各部署、各学科、各学年、各教科と連携を図り、生徒の進路選択までの過程、または進路達成までの適切な指導体制や流れになるように改善していく。これからも、生徒、保護者に積極的に進路指導室の解放・活用を進め、さらに進路情報の発信を進めていきたい。



4. 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）

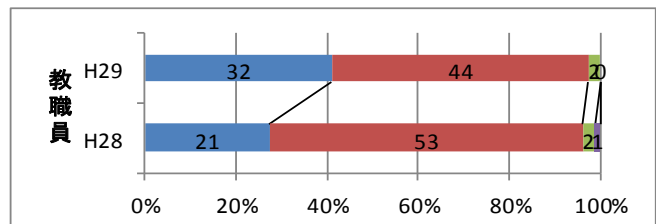
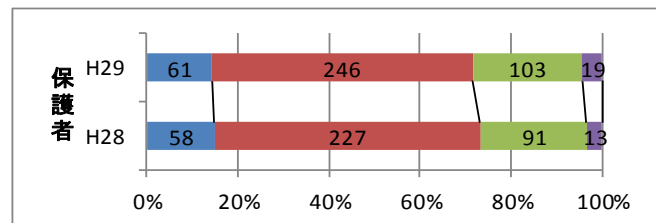
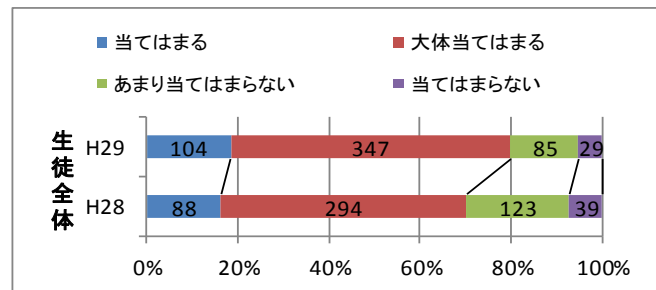
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

・生徒は70.2%から79.8%へ、教職員は96.1%から97.4%へ昨年度よりも肯定的評価が増した。担任の先生方が常に生徒に目配り、気配りをしてくださり、生徒の話聞いて早めにカウンセラーやSSWにつないで相談できた結果だと思われる。しかしながら、保護者のみ昨年度よりも肯定的評価が1.7ポイント減の71.6%に留まった。

<改善に向けた取り組み>

・学校内ではカウンセラーやSSWの存在が定着し、生徒や教員は相談の機会を活用できているが、保護者に対して学校便りや保健だよりを通して周知する努力をし、もっと利用していただけるよう工夫していく。



5. 部活動が活発に行われている（部活動）

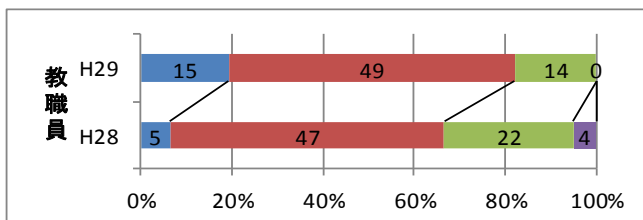
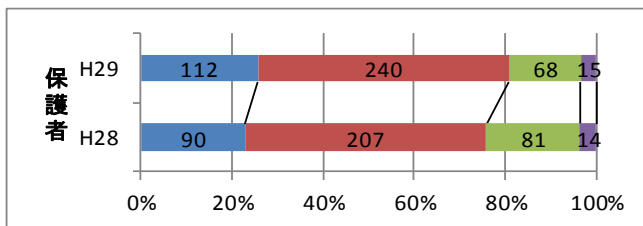
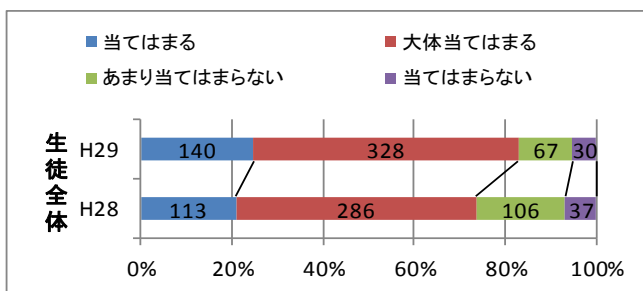
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

部活動については活発な活動となった。アンケート結果で3者とも肯定的回答が80%を超えた。支部総体では6/14団体（柔道、空手道、バドミントン男女、バレーボール部男子、剣道男子）、6個人（柔道3、空手道1、陸上競技走り高跳び、剣道女子）が優勝、支部高文連においても写真部が個人1位、県大会においても多くの入賞や上位進出を果たした。また、インターハイ、国体（アーチェリー部個人）の出場や東北大会以上でアーチェリー部、機械工作部、商業部、農業クラブ、空手道部が出場するなどめざましい成績を収めた結果が70%を超える要因となった。

<改善に向けた取り組み>

次年度も部活動への積極的参加を呼びかけ加入率100%を目指すために、年度初めの部活動登録まで生徒会からの呼びかけや、部員等による勧誘活動を実施する。



6. 生徒会活動が活発に行われている（生徒会活動）

【分析および改善に向けた取り組み】

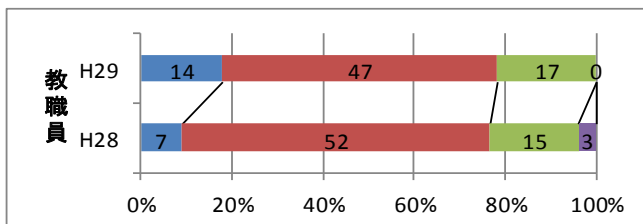
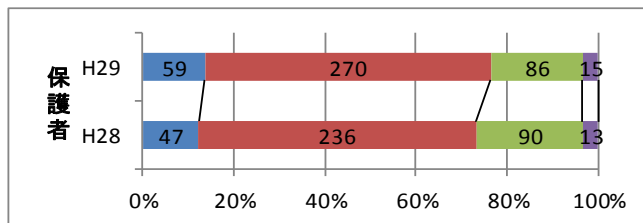
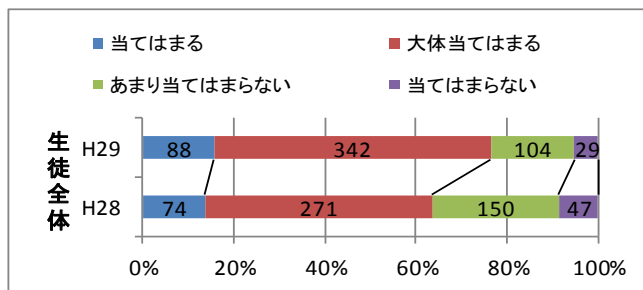
<分析>

生徒会活動においてはアンケート結果では3者とも77%の肯定的回答となった。一定の評価はいただいているものの、生徒の自主性が不足していたという観点において、否定的回答が20%を超える結果となったと分析する。

<改善に向けた取り組み>

生徒会活動等
次年度は地域魅力NO.1を目指すため、登米総スタンダード確立のための具体的取組を
生徒に考えさせ実践する取組を考えている。
～元氣な挨拶・清楚な身だしなみ・時間前行動の励行～
実現のために

- ① 生徒会、クラス代議員によるスローガン作成
- ② スローガン表現のための具体的取組の検討
- ③ 具体的取組を各種委員会において実行
- ④ 既存の行事を活用し、PTAと連携した活動の実施



7. 有意義な学校行事がある（学校行事）

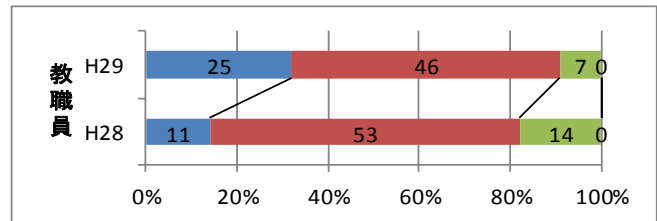
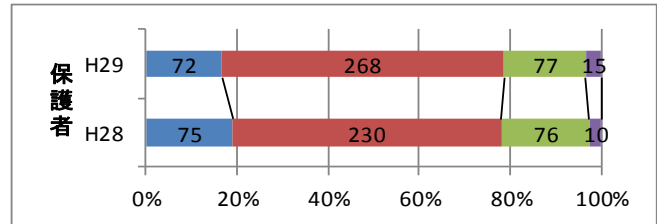
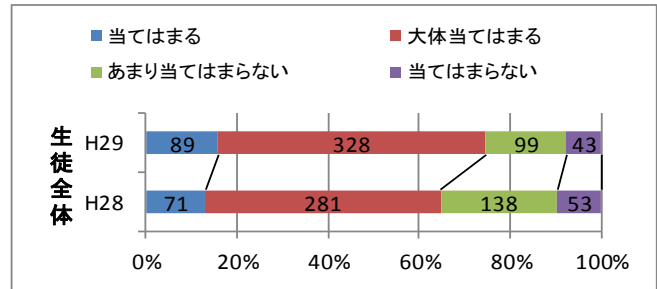
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒、教職員で11%、の上昇。保護者においては0.7%とほぼ昨年度並みとなった。クラス毎の行事の実行委員の心構えが不足していた。

<改善に向けた取り組み>

生徒の主体的な取組となるように、教員側から生徒会を中心とした活動への切り替えを行えるように、登米総スタンダードにおける生徒の取組を生徒自ら考えさせ、計画実施できるよう指導する。



8. 地域の人とかかわる機会を多く取り入れている（特色ある学校づくり①）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

《生徒》

全体で見ると、当てはまると大体当てはまるで86.9%となり、昨年度に比べて25.6ポイントと大幅に上昇した。学年別にみても、1学年は91.4%、2学年は82.7%、3学年は86.7%となった。1学年は「産業基礎」や「キャリアインターンシップ」で地域の方との関わりがあり、2年生は1学年の経験と学科毎の「企業見学」や「専門インターンシップ」などへの取り組みがあり、3学年については「起業実践」において地域の方々からご指導いただいたためと考える。

また、各学科で外部講師を招いての出前授業等も要因になっていると思われる。

《保護者》

当てはまると大体当てはまるで89.2%となり、昨年度に比べて18.2ポイント上昇した。ちなみに昨年は3.3ポイント下降している。今回の上昇についてホームページ等での情報発信やマスコミの報道などが考えられる。

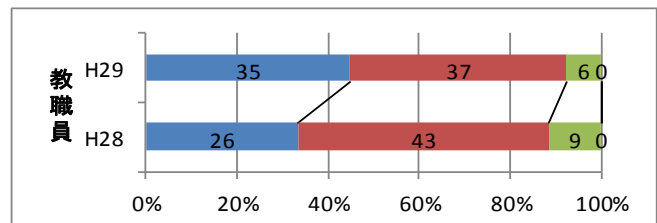
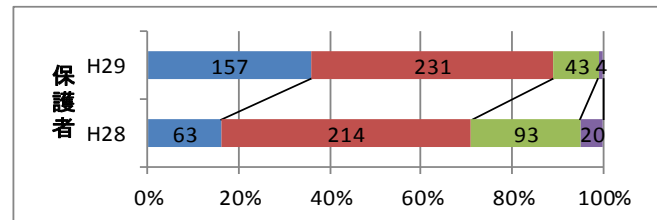
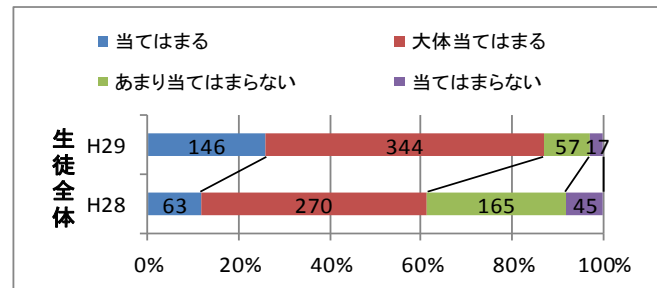
《教職員》

当てはまると大体当てはまるで92.5%となり、昨年度に比べて3.8ポイント上昇した。今年は完成年度であり、専門の学習や特色ある教育活動で多くの地域の方々に協力をいただいたためと考える。

<改善に向けた取り組み>

全ての対象でポイントが上がったので次年度も今年度同様の取り組みを行う。

取り組みの内容については課題も多く、校内での検討の必要性を感じている。



9. 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり②）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

《生徒》

全体でみると、当てはまるとだいたい当てはまるで87.3%となり、昨年に比べて7.9ポイント上昇した。学年別では1学年が91.3%、2学年が82.7%、3学年が86.7%となった。特に3学年の上昇が大きく、普通科がなくなり全て専門学科となったためと思われる。

《保護者》

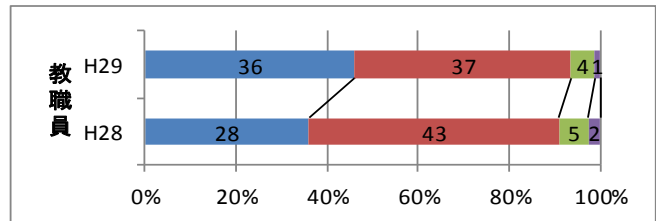
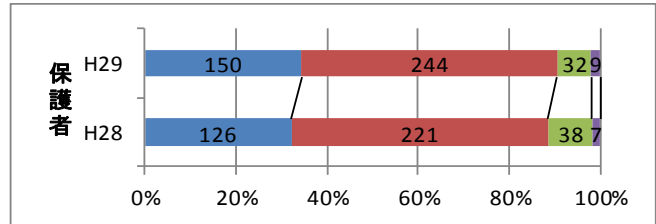
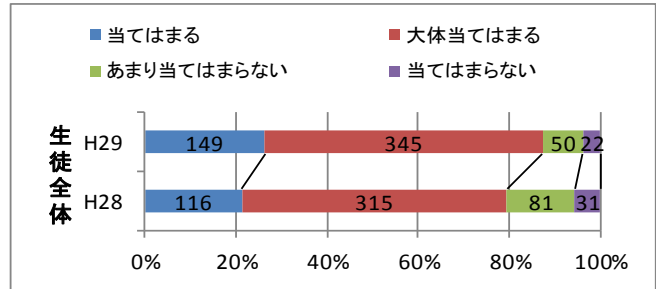
全体でみると、当てはまるとだいたい当てはまるで90.6%となり、昨年に比べて2.1ポイント上昇した。要因は生徒と同様、普通科がなくなり全て専門学科となったためと思われる。

《教職員》

当てはまると大体当てはまるで93.6%となり、昨年に比べて2.6ポイント上昇した。

<改善に向けた取り組み>

全ての対象でポイントが上がったので、引き続き取り組んでいく。



10. 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている（防災教育）

【分析および改善に向けた取り組み】

「災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている（防災教育）」

<分析>

・肯定的な回答（「当てはまる」「大体当てはまる」）が、【生徒全体】では85.6%（H28：73.1%）、【保護者】では82.2%（H28：68.8%）、【教職員】では93.6%（H28：87.2%）となった。

・全体的に前年度より向上し、学校においては、避難訓練についての担任や教科の先生方の丁寧な対応が生かされてきたのではないかと伺える。

・保護者においては、緊急時の連絡体制について、文書等で周知するなどし、さらに安心できるよう努めていく必要がある。

<改善に向けた取り組み>

1 生徒に向けた対応

・生徒の防災委員会の活動において、点検活動を取り入れるなど、何らかの工夫をしていきたい。

・LHRなどでも、防災について触れる機会をもち、さらに安全対策の意識を高めさせたい。

2 保護者に向けた対応

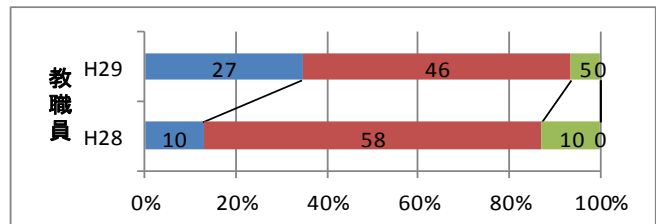
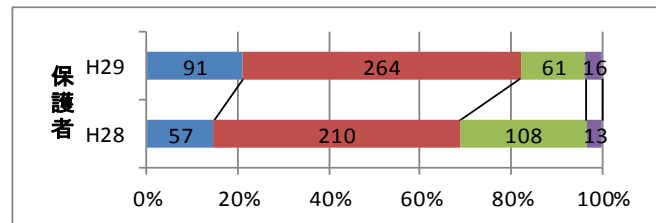
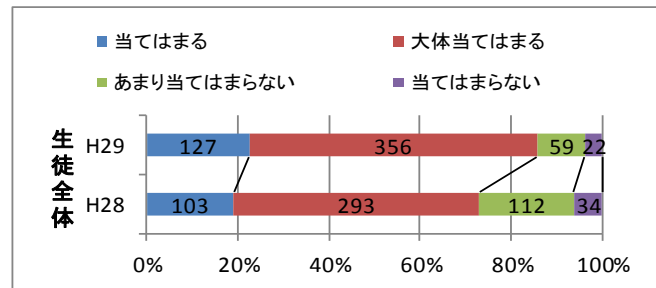
・来年度は、保護者向けの防災リーフレットを作成し、配布していきたいと考えている。

・災害・非常時のためにも、メール配信の登録100%を目指して呼びかける必要がある。

3 学校として

・教室棟以外の想定や、いろいろな場面を想定した避難訓練を、消防署の方と相談しながら行っていけるよう検討を重ねていきたい。

・教職員の組織をわかりやすく提示していき、チーム一丸となって安全対策に努めていきたい。



1.1. 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている（開かれた学校づくり）

【分析および改善に向けた取り組み】

＜分析＞

「当てはまる」と「だいたい当てはまる」の割合の合計（肯定的意見）は、生徒88%、保護者93%、教員100%であり、前年度に比べ、生徒が9ポイント増、保護者14ポイント増、教員3ポイント増となった。

肯定的意見が増加した要因は下記2点が考えられる。

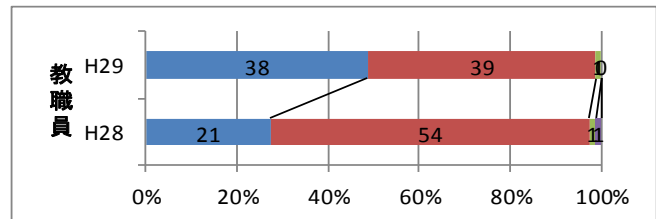
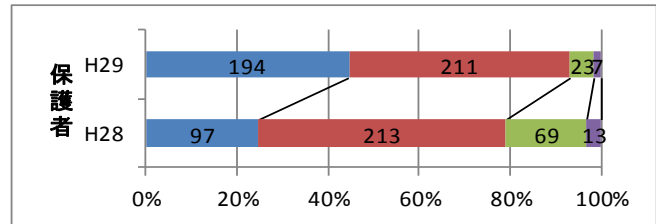
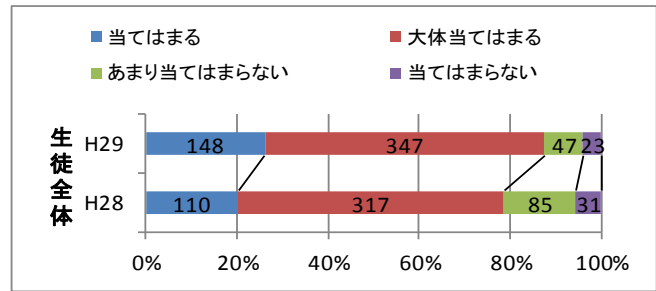
- 本校HPに学校行事の様子や大会結果等をブログとして日々更新し発信してきた。
- ・4月～12月末時点で122件（月平均13件）のブログを更新。
- 「学校だより」を月1回定期発行し、学校HP掲載や生徒・保護者へのメール配信、併せて近隣4行政区長の協力を得て、全戸配布した（395戸）。

＜改善に向けた取り組み＞

- 1 地域に関心を持ってもらうため、教育活動の一層の充実を図り、今後も「学校だより」、「学校HP」、「一斉メール配信システム」により、その内容を地域・生徒・保護者に積極的に発信する。
- 2 特に一斉メール配信システムは、生徒・保護者に対する学校HP更新情報の発信手段及び災害時連絡手段としても用いることから一層の登録率の向上を図りたい。現時点での登録率は、「生徒又は保護者のいずれか」が登録している家庭は88%である。

＜一斉メール配信システムの登録率＞

	H29年度	H28年度	H27年度
生徒のみ	66.4%	63.8%	44.0%
保護者のみ	78.4%	70.5%	51.7%
生徒保護者いずれか	88.0%	—	—



1.2. 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている（施設設備）

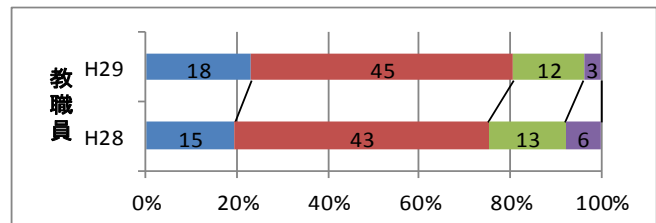
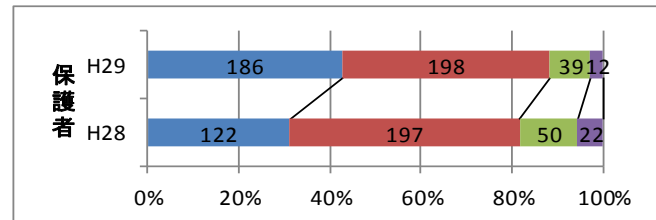
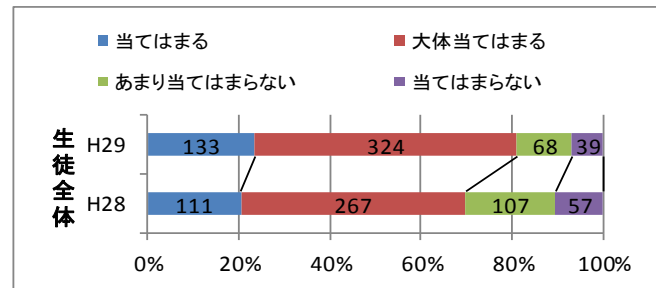
【分析および改善に向けた取り組み】

＜分析＞

- 生徒・保護者・職員ともに「当てはまる」、「大体当てはまる」が80%を超えており、前年度に比べ肯定的な評価が増えている。特に生徒の肯定的な評価が70%から81%と11%上昇している。
- 昨年度までに校舎・グラウンド等の整備工事も完了し、「学校施設」が整ったことで行事や部活動等で施設を活用する機会も増えてきたため、評価が改善したものと推測される。

＜改善に向けた取り組み＞

施設設備に関する要望について、自由記述では施設の増築などが上げられているが、開校にあたって計画された校舎・体育館などの施設整備は完了しているため、ハード面での対応は難しいが、関係する分掌部・科と連携を取りながら、可能な範囲で改善に取り組みたい。



1.3. 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題）

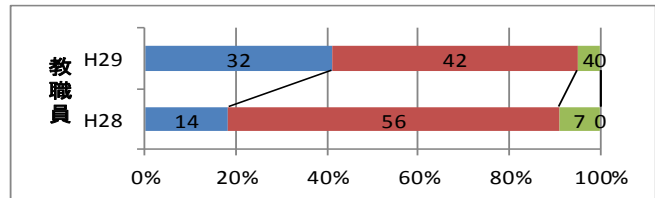
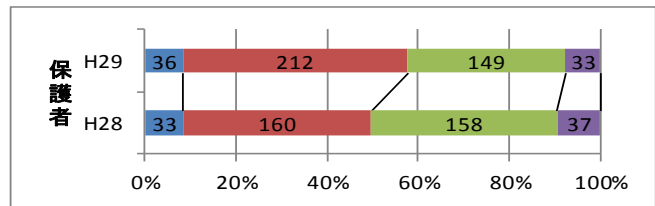
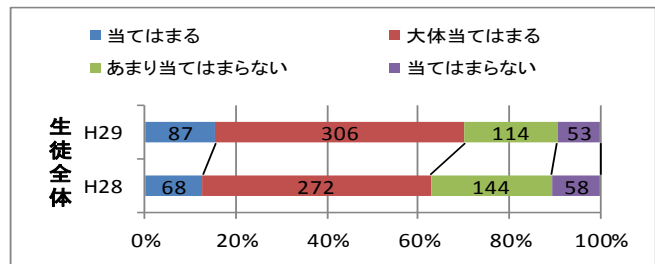
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒、保護者で昨年より8%、教職員では5%の上昇となった。しかし、保護者42%、生徒30%が否定的回答となっている。特に生徒において否定的回答を示した中に、いじめが潜在している危険性も懸念される。保護者に向けた取組不足が原因と考える。

<改善に向けた取り組み>

- 1 生徒に向けた対応
 - ・初年度に生徒会が採択した「いじめ防止宣言」の発表、教室等への掲示をする。
 - ・質問紙調査や教育相談の充実を図ることにより、生徒が日頃からいじめを訴えやすい体制の整備をする。
- 2 保護者に向けた対応
 - ・入学説明会、PTA総会における「いじめ防止基本方針」、「家庭でできるいじめチェックリスト」の配布・説明する。
 - ・「いじめ防止基本方針」のホームページで公表する。
- 3 学校として
 - ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施や、具体的な「いじめ対策年間計画」の検証・修正を行う。
 - ・いじめの疑いに関する情報の収集と記録、共有の充実を図る。
 - ・「居場所づくり」や「絆づくり」のために、規律正しい態度で授業や学校行事等に主体的に参加できるように体制づくりを行う。積極的生徒指導を行う。



1.4. 環境美化に取り組んでいる（環境美化）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

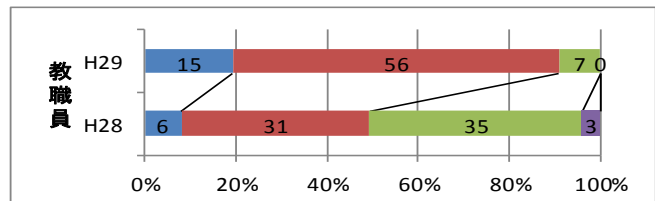
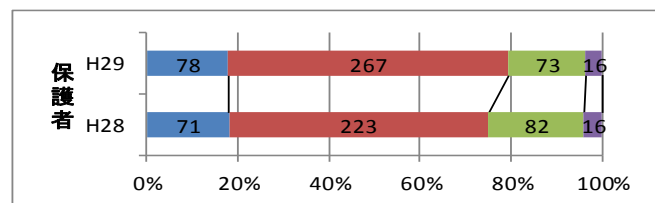
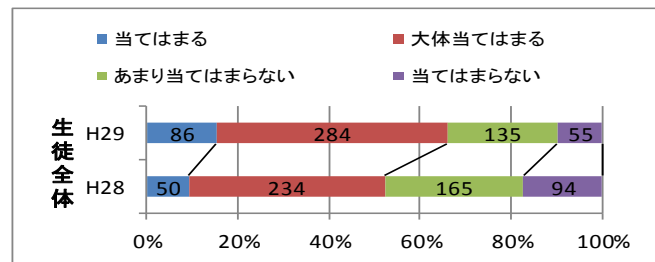
生徒66.1%、保護者79.5%、教員91.0%が肯定的評価をしており、全ての層で昨年度よりも評価がアップした。しかしながら、生徒の肯定的評価はまだ7割にも満たない。また、保護者の「当てはまる」という評価も0.13ポイント減であり、自由記述では、新しい校舎なのでもっときれいに保持すべきだという期待を込めた意見があった。また、廊下や階段の汚れも指摘された。廊下や階段は日々丁寧に清掃していただいているが、床が白いため生徒の食べ歩きによる汚れが目立つこと、階段は清掃直後から滑り止めのレール下に入り込んだばかりが通行によって出てくるため指摘されたと思われる。

・教員の高評価に対し、生徒や保護者からの評価が低く、特に清掃を行っている生徒本人の評価が厳しい。昨年に比べて取り組みが良かったという学校内の絶対評価が上がっただけで、客観的にはまだまだであると反省される。

<改善に向けた取り組み>

- ・清掃に関する教職員アンケートの結果、清掃に必要な時間は「15分」が最も多かった。来校者から清掃が行き届いていないと指摘された箇所もあり、清掃時間は現行のまま継続したい。清掃に取り組んでいない生徒がいる、移動に時間がかかり、速やかに清掃活動ができていないという現状もある。速やかに集合し、全員で取り組むための手立てや呼びかけを考えていく。
- ・食べ歩き禁止の呼びかけをする。学校公開や行事の際は、朝に廊下や階段を中心に特別清掃を実施するなどの改善をしていく。
- ・また、アンケートから分担区により清掃内容や必要な時間に差が大きいことも分かった。日々の使用頻度と清掃内容のバランスを考慮して分担区を見直し、人手が必要な箇所に必要な人数（指導教員含む）を割り当てられるよう、分担区の再編成と担当学級の割り当てを工夫する。

◎学校教育目標である「産業界をリードする人間を育成する」ために、挨拶と掃除ができる生徒を育てることは不可欠と考えます。今後も日々の清掃指導に力を入れていきます。



15. 学校生活は充実している（総合満足度）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

「当てはまる」と「だいたい当てはまる」の割合の合計（肯定的意見）は、生徒78%、保護者83%であり、前年度に比べ、生徒が10ポイント増、保護者1ポイント減となった。

開校3年を迎え、在校生は本校入学生のみとなり、本校での学校生活全般に肯定的な雰囲気が醸成されてきた結果と考える。

（生徒の肯定的意見の割合は、全ての質問項目で昨年度を上回った。）

<改善に向けた取り組み>

学校生活の中で、生徒の肯定的意見と教員の肯定的意見で特に大きな乖離がある項目は、「13. 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」（生徒70%、教員95%）、「14. 環境美化に取り組んでいる」（生徒66%、教員91%）であり、生徒の肯定的意見がどちらも25ポイント低い。

これら2項目のように生徒と教員の肯定的意見に乖離がみられる項目については、教員は一生懸命取り組んでいるものの生徒が主体的に取り組んでいない項目である可能性がある。学校生活のより一層の充実（学校満足度向上）のためにも、生徒と教員が問題意識の共有化を図り、チーム「登米総」一丸となり、取り組んでいく必要がある。

